



○教科教育実践高度化コース長（塚本 光夫 先生）



大学で授業を受けた。多くの授業を受けた。学校教育も教科教育も授業を受けた。多くの知識を得て、多くを理解した。優れた教師の条件は、①教職に対する強い情熱、②教育の専門家としての確かな力量、③総合的な人間力、の3つだ。どの条件も満足している。そこで、教育実習に行った。しかし、思うように授業をできない。他者評価以前に自己評価でボロボロだ。しかも、協働学習、ICT教育、主体的・対話的で深い学び、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力、人間性の涵養、などもしなければならない。単に経験不足だけなのか、それとも教師としての素養がないのかと悩む。実際に学校教師になったら、生徒指導や学級経営・学校経営も必要だ。知識も技能も実践力も経験も不足している。熱意だけで教師はできない。不安だ。

熊本大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）では、教科に関して深化した知識・技能・実践力の向上と、実際の学校現場での実践研究で確かな実践力育成により教員としての能力が向上し、上記の不安を払拭することができます。

○院生の声

・現職教員学生 宮崎 健太 さん



教職大学院に入学して半年が経過し、ストレートマスターや他の現職教員学生と多くのことを協力して学んでいます。教職大学院の魅力は対話と創造であると感じています。校種、教科の垣根を超えて、多面的・多角的に対話し、教科横断的に考えることの良さや新たな教師観を学ぶことができます。専門教科から視野を広げ、他者の意見を聞き、受け入れることで、これまでの自分自身を振り返ることができています。また、教科のジグソー学習やビジョンを共有する成長モデル、学生による協働動画作成など、自ら考え、他者と協働して新たなものを創造する経験は大学院でしかできないことだと実感しています。この学びを活かし、生徒や同僚と学び合い続ける教師でありたいです。

・ストレートマスター 宮崎 優歩 さん



私は、大学卒業後すぐに教員として働くことに不安を感じ、教職大学院へ進学しました。教職大学院では実習の時間が十分に確保されているため、実習を重ねるにつれて少しずつ不安が解消されているように思います。実際に協力校で授業を行っている時、なかなか思い通りにできず、自分の力不足を感じるばかりです。一方で、学部生の頃には考えもしなかったような課題が見つかり、その課題一つ一つについて考えを深めていくことに、学ぶ楽しさを感じています。この学ぶ楽しさを実感できるところが、教職大学院の大きな魅力だと思います。学びの機会に恵まれたこの教職大学院で力を付け、子どもたちにも学ぶ楽しさを感じさせられるような教師になりたいと思っています。